

学報

2016. May

vol. 56

特集 *Special Feature*

奈良県立医科大学卒業式
学長式辞

新たなる旅立ち

退任のご挨拶

就任のご挨拶



Contents

特集

奈良県立医科大学卒業式 学長式辞	3
新たなる旅立ち	6
退任のご挨拶	7
就任のご挨拶	8～10
法人の新しい組織	11
平成28年度 公立大学法人奈良県立医科大学予算	12～13
クラブ紹介	14
キャンパス整備に向けた将来像の中間取りまとめを行いました	15
図書館だより	16
産学官連携だより	17
平成28年度入学試験を実施しました	17

Campus News

女子中高生の医療分野進路選択支援 「私もなれる！いのちを支える専門職」を開催しました	18
医学教育分野別評価のための実地調査を受けました	18
平成27年度認知症対応力向上研修を開催しました	19
第5回大和漢方医学薬学セミナーを開催しました	19
研究倫理教育研修会を開催しました	20
ヒトゲノム・遺伝子解析研究研修会を開催しました	20
人工赤血球により低酸素ストレス下のラット胎仔の 発育不良を予防することに成功	20
チェンマイ大学との交流	21
看護部活性化推進会便り	21
MRI検査体制の刷新	21
総合防災訓練・災害医療訓練を実施しました	22～23
BLS研修を実施しました	23

Winner Report

平成27年度 学位授与の状況	24
平成27年度(第3回)若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定	24
助産師の実践能力を評価する全国共通の仕組みアドバンス助産師誕生	24
学会等における論文賞等の受賞一覧	25
法務大臣より感謝状が贈呈されました	26
卒業生に対する複数回献血感謝状の贈呈	26
第121回日本解剖学会総会・全国学術集会で優秀発表賞を受賞しました	26
第121回日本解剖学会総会・奨励賞を受賞しました	27

Information

インフォメーション/ 「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました	27
メディア掲載情報／編集後記	28

奈良県立医科大学卒業式 学長式辞

学長 細井 裕司

今日の佳き日、奈良県立医科大学医学科を卒業する105名、看護学科を卒業する82名の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは小学校入学以来、医学科にあっては18年間、看護学科にあっては16年間、或いはそれ以上の長い学生生活を修了され、ここに医学士、看護学士の学位を得られましたことは誠にめでたく、心からお祝い申し上げます。



これは、何よりも皆さんの弛まぬ努力の結果であります。それと同時に、今日まで皆さんを慈しみ育ててこられた保護者の皆様方や、皆さんの人間形成や教育に御指導を賜った教員、並びに関係する皆様のお陰であり、このことに感謝の気持ちを持っていただきたいと思えます。

また、本日は、公務ご多忙の中ご臨席くださいました

奈良県副知事	<small>なみごし てるお</small> 浪越 照雄 様
奈良県議会議長	<small>なかもら あきら</small> 中村 昭 様
地元選出県議会議員	<small>おか しろう</small> 岡 史朗 様
地元選出県議会議員	<small>もりやま よしふみ</small> 森山 賀文 様
奈良県医療政策部長	<small>わたなべ けんいちろう</small> 渡辺 顕一郎 様



をはじめ、御来賓並びに関係各位に心から厚く御礼申し上げます。

■ 卒業式式辞の目的

これから学長としての私から皆さんに卒業に際してのメッセージを贈りたいと思います。ここで皆さんの頭の中に何故メッセージを私が贈ろうとしているのかという疑問を持って欲しいのです。

何故、理由は、と自己に問いかけることは、物事の本質に迫る最も重要な知的活動です。今、卒業生の誰かに何故私がメッセージを贈ろうとしているのかを問いかけるとどのような答が返ってくるでしょうか。「昔から卒業式では学長式辞があるから、どの大学でも学長式辞があるから」という答が多いのではないかと思います。つまり、「以前から行なっているから、みんなが行っているから」という答です。

何ごとを行うにしても目的を明確にし、目標（数値目標と言っても良いかも知れませんが）を定め、そして実行した後には評価することが重要です。

私がメッセージを贈る理由は、皆さんの人生を豊かにして欲しいからです。

本日皆さんに贈ることばは、格言や故事ではありません。最近見かけたある会社のキャッチコピーです。

「挑戦する人か、人の挑戦にあれこれ言う人か。」という文言です。



■ 世の中の現状

これから皆さんは自分の行動を決めるにあたって現状認識が大切です。また、現状は刻々と変化していくという認識を持っておく必要があります。ここで世の中が急速に変化している例を挙げたいと思います。それは大学のクラス分けです。

以前は国によって大学のクラス分けは行われていませんでした。平等主義に基づいてどの国立大学も同じという建前で予算配分がなされていました。しかし、2013年6月17日(3年9カ月前)の新聞に、「国の政策の変化、国が迫るクラス分け」との見だしで国が初めて選ぶ研究大学20校の記事が出ました。同年8月7日の新聞には選ばれた大学名が3つのランクに分けて掲載されていました。2014年9月26日の新聞には、スーパーグローバル大学37大学の選抜結果が載っていました。2014年12月18日には、全国立大学を世界最高水準の研究、特定分野では世界的、地域活性化の中核の3つのグループに分類するとの記事が載り、2015年9月8日には3分類の結果が発表されました。そしてこの3月10日つまり先週の木曜日には、3分類された大学それぞれについて国からの運営費交付金の配分が新聞に掲載されていました。

私は平等主義から一転して競争の時代に入るやいなや、政策遂行のスピードの速さに驚きました。と同時に、奈良医大が単に存続するだけで無く、「真の大学として」1世紀先にも存続できる基盤を早急に作る必要性を痛感しました。

■ 奈良医大の現状

奈良医大の現状は希望に満ちています。昨年70周年を迎え、100周年に向って旅立ちました。100周年の頃には皆さんは卒後30年、医師として看護師として脂がのりきった時期になります。自分の技術、知識は自信にあふれ、患者さんからは信頼され、後輩の指導にも力が入っている頃です。その頃には奈良医大は全国の医科大学や医学部の中で最上位の医科大学にランクされていることでしょう。私は皆さんが「挑戦する強い心をもって行動し続ける」ことによって奈良医大は日本で最も存在感のある医科

大学となっていることを確信しています。

私は「奈良医大は希望に満ちています」と言いました。2021年(平成33年)には新キャンパスがオープンする予定です。また現キャンパスの整備も次々に行われます。昨年から、ほぼ毎月1回のペースで奈良県と奈良医大の間で将来像の策定会議が行われ、知事をはじめ奈良県が奈良医大を真の意味で良くしようとする並々ならぬ意気込みを感じています。奈良医大を最上位クラスの大学にするために必要なことは熱意と戦略です。誰も行っていない構想を実行し、多くの人や企業、自治体、国がその計画に賛同し参加する。そのような構想として奈良医大はMBT構想を提唱しています。MBTとはMedicine-Based Townの頭文字をとったもので、「医学を基礎とするまちづくり」と訳しています。すでに、内閣官房のモデル事業になり、奈良県と橿原市、橿原市と奈良医大は実現のための協定を結びました。

この1月21日には、MBTコンソーシアム設立記念シンポジウムを橿原市で行い、全国から企業等293社(団体)536名、奈良医大からの96名を加えて632名が参加しました。奈良医大の教授(一部代理を含む)のほぼ全員69名が参加し、MBT構想で実現しようとしている「少子高齢社会への対処、新産業創生、地方創生」を達成するための取り組みについての医療者と企業との交流相談会



を実施しました。医師や看護師の知識や技術を一人一人の患者さんに使うだけでなく、まちづくり、産業創生、地方創生に用いる奈良医大の試みは世界的にも珍しい取り組みとして新聞やテレビで取りあげられましたので、ご存じの方も多いと思います。

奈良医大は一人一人の患者さんに医療で貢献するだけでなく、日本再生に医学の力で貢献する大学として最上位を目指します。



■ 人生最大の財産

さて、皆さんはこれからの人生を豊かにする財産を手に入れました。それは奈良医大の卒業証書や医師や看護師の免許だけではありません。皆さんが今まで奈良医大で学び、教職員や友人と交流し、また提携大学の学生と友人になり、クラブ活動をするなど、その活動が皆さんの頭に、体に財産として染み込んでいるのです。

これから大切なことは、この財産を使って皆さんの人生をどれだけ豊かなものにできるかどうかです。人生を豊かにできるかどうかは最初に述べた文言にかかっている

ます。すなわち「挑戦する人か、人の挑戦にあれこれ言う人か。」です。

どちらの人間として一生を送るかによって、その人の一生の値打ちは何倍も異なるでしょう。それだけではありません。皆さんの周囲にいる人にとっても、皆さんがどちらの人かによって、大きく影響を受けます。後者であれば迷惑な人となるのです。

もう一度言います。「挑戦する人か、人の挑戦にあれこれ言う人か。」挑戦する人になってください。それが皆さんの人生を何倍も豊かにすると信じています。

本日は誠におめでとうございます。



今年も220名の若き俊英が旅立ちました。本学のみならず、広く日本、そして世界の医療・医学の向上に大きく貢献してくれることでしょう。(220名：医学科105名、看護学科82名、大学院医学研究科博士課程19名、同修士課程9名、看護学研究科修士課程5名)
また、式の中で、次の賞の受賞者が発表されました。(敬称略)

◇**奈良県立医科大学学長賞** 医学科6年間または看護学科4年間の課程で最も優秀な成績を収めた者

医学科：安績 ^{あつみ} 秀一 ^{ひでかず} 看護学科：久志 ^{くし} 毬乃 ^{まりの}

◇**医学科同窓会厳樞賞、看護学科同窓会華樞賞**

- ①クラスのリーダーとして顕著な活躍をした者
- ②ボランティア活動などで社会に特に顕著な功績があった者
- ③クラブ活動など課外活動で特に優秀な成績をあげた者

厳樞賞：岸田 ^{きした} 勇人 ^{はやと} / 青木 ^{あおき} 郁樹 ^{ゆき} / 峯 ^{みね} 昌啓 ^{あきひろ} / 中尾 ^{なかお} 寛宙 ^{ひろみち} / 岩倉 ^{いわくら} 真也 ^{しんや}

華樞賞：森川 ^{もりかわ} 愛弓 ^{あゆみ} / 山内 ^{やまうち} 優里 ^{ゆり} / 竹村 ^{たけむら} 望 ^{のぞみ}



医学科
安績 秀一

この度は学長賞を頂き大変光栄に存じます。

私は高校卒業後、定職に就かず10年程フリーターをしていました。様々な家庭の事情もありましたが、今思えば、自分の思うとおりに物事が進まないことに対して、只々不貞腐れていただけのようにも思えます。そんな中、友人の叱咤激励や家族の支えにより、親戚に反対される中、アルバイトで受験費用を調達しながら3年程独学で勉強を行い、医師になるという夢を叶えるために本学に入学したのが6年前のことです。

入学後、私の生活は全く変わったものになりました。周りは10歳以上年齢が離れた学生ばかり、記憶力も衰えているのに、医学の膨大な知識を頭に入れていかなければならないのです。常に不安が付きまとっていました。

しかし、教職員の皆様、同級生や先輩・後輩方をはじめ家族に至るまで、大学入学後に私に関わってくださったすべての方々から多大なるご指導・ご支援をいただき、また、そのどれ一つが欠けても、私のような凡夫が学長賞を頂くことなどなかったでしょうし、ましてや卒業すら叶わなかったのではないかと思います。そして、ただ勉学のみならず、様々な機会をも与えていただき、貴重な時間を過ごすことができました。この場をお借りしまして、心より御礼申し上げます。

今後は医療と、また学問としての医学とどう向き合い、取り組んでいくのかを模索しながら、一歩ずつ、ただ牛のごとく進んでいきたいと思っております。今後とも、変わらぬご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



看護学科
久志 毬乃

この度は学長賞という名誉ある賞を頂き、誠に光栄に存じます。

大学生生活を思い返しますと、私は要領が良いとはいえず、何をやるにも人一倍時間がかかる学生であったと思います。入学当初より学業への不安は大きく、常に目の前の課題に対し、自分の限界まで本気で向き合うことを心掛けてきました。何度なくじけそうになることもありましたが、困難なことも楽しいことも含め、数えきれないほどのたくさんの貴重な経験をし、学び、無事卒業の日を笑顔で迎えることができましたのは、いつも私のことを考え応援してくれた家族、たくさんの困難を共に乗り越えてきた信頼、尊敬できる友人、熱心に指導していただいた先生方や実習指導者の方々、受け持ちさせていただいた患者さん、学生が勉強しやすい環境をつくってくださった教育支援課の方々といった多くの方々との出会いや支えがあったからであり、感謝の気持ちでいっぱい입니다。

4月からは看護師として、常に自己研鑽を怠ることなく、向上心をもって、日々努力して参りたいと思っております。また、これまでやこれからの全ての出会いを大切に、周囲への感謝の気持ちを常に忘れることなく、ご恩を返していけるよう、看護師としても人間的にも成長していけるよう努めて参ります。

最後になりましたが、今までお世話になりました皆様にこの場をお借りして、厚くお礼申し上げます。今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしく願いいたします。

退任のご挨拶



総務・経営担当理事
(事務局長取扱) **山下 昌宏**

本年3月末日をもって定年退職を迎えることになりました。前任の法人企画部長の辞任により、年度途中の平成23年10月1日付で法人企画部長として着任し、平成26年4月1日からは理事(総務・経営担当)兼事務局長として勤めて参りました。この間、前吉岡理事長に2年半、細井理事長に2年お仕えし、数々の重要課題に取り組ませていただいたことに感謝致しております。特に理事就任後の2年間は本学における大改革期となり、細井理事長と共に大きな変遷を乗り越えて参りました。最も大きな改革は「権限と責任の明確化」だったと思います。この改革により、教授会の役割や副学長・部局長・教授の選考方法の見直しなどがなされました。数十年来の大改革でした。その他、「未来への飛躍」基金の創設やMBT構想の推進、将来像の策定、移転計画など数々の新しいことに取り組ませていただきました。しかしながら、これらにつきましてはまだまだこれからが正念場です。役職員の皆様、どうぞ細井理事長を支え一丸となって、全国医学部中トップ10入りを目指し、奈良医大の明るい未来を築いていただきたいと切に願っております。最後になりましたが、これまで皆様方からいただきましたご厚情に、心から御礼申し上げます。



消化器・総合外科学
教授 **中島 祥介**

本年3月末に退任時期を迎えることができました。これも、教室員の奮闘をはじめ、大学関係の皆様方、県関係の皆様方のこれまでの強力なご支援とご指導のお陰と心から感謝申し上げます。

私の外科医としての人生に大きな影響を与えた一冊の本に、『始発だけの線路』があります。全ての環境が整った大きな大学で必ずしも立派な仕事がなされるとは限らず、目標の設定如何で、環境の整わない小さな大学にこそそのチャンスがあると、ナンバーワンを目指し日夜奮闘した奈良医大第一外科(現消化器・総合外科)の先輩のことが書かれています。読む度に胸が熱くなり、涙が止まらなくなりますが、私は今でも「それがどうした、かかってこんかい!奈良医大も負けませんで!」という気持ちで一杯であります。

今、学長・理事長の細井先生を先頭に、奈良医大の未来への飛躍に向け重要な種々改革が推し進められています。今こそ、奈良医大の職員の皆様方、学生諸君(奈良医大の将来は学生諸君の双肩にあります。)が一致団結して改革に取り組み、奈良医大を自他ともが認める「ナンバーワンでオンリーワンの大学」へと飛躍させていただくことを願って止みません。



総合周産期母子医療センター
新生児集中治療部門
教授 **高橋 幸博**

私は昭和51年3月に卒業したのち、故福井弘名誉教授の主催されておりました小児科に入局し、卒業後は約2年半本学以外の医療施設で勤務しましたが、医師としての人生の大半を本学でお世話になりました。その間、小児科や輸血部に勤務し、昭和64年(平成元年)から新生児病室に異動を命じられ、今年で28年間、新生児医療に従事しました。私が新生児医療を始めたころは、奈良県の人口は146万人で、全県で新生児集中治療病床が本学10床しかなく、また、新生児の医師は私を含めスタッフ3名しかいませんでした。そのため、県内の母体・新生児の多くは近隣の府県の周産期施設に母子ともに搬送せざるを得ず、今でもそのことを思うと大変申し訳なく思っています。何度となく県にお願いし、漸く県立奈良病院や近畿大学奈良病院に新生児集中治療施設を開設していただきましたが、奈良県の人口が139万人に減少しても、まだまだ母体の県外搬送が続いております。いかに奈良県内に周産期施設が不足していたかを退官するにあたり改めて感じています。今回、荒井知事をはじめ県民の方々の大変なご努力で、ようやく本学に本格的な総合周産期母子センターが完成することは、私にとって、この28年間の思いを達することができたとの思いと任を終えたと感じております。

この間、本学の医師・看護師、パラメディカル、事務職員の方々をはじめ多くの皆様には大変感謝しています。最後に、現在の新生児医療は新生児の内科・外科疾患のあらゆる疾患への対応が必要な医療です。また医療内容も高度化しています。県民の新生児医療の信頼を得るには新生児医療を担える後継者の育成と県医療機関とのネットワーク化です。

その中核を担える奈良県立医科大学が今後益々発展することを心よりお祈りいたしまして、私の退任挨拶に代えさせていただきます。どうも有難うございました。



中央内視鏡・超音波部
病院教授 **藤井 久男**

このたび3月末日をもって退任することになりました。本学を1976年に卒業し、第1外科(現消化器・総合外科)に入局して、はや40年。この間、2年出向した以外、ずっと奈良県立医科大学に在職しておりました。長居をし過ぎたなという思いの一方、大学という大きな組織の中で守られながら馬齢を重ねてしまい、浦島太郎になった気持ちがしております。大学に長く居候した私は今、大学に在ることの意義を強く感じています。それは多くの人に会えること、数多くの知に感化される機会を得ることです。奈良県立医科大学はCollegeではなく、Universityと呼称しています。その経緯について知りませんが、私は語義である *universitas magistrorum et scholarium* = community of teachers and scholars に照らし、Nara Medical University は医学に貢献する多くの英知の集う学府としてふさわしい呼称であると思っています。本学では医学を基礎とするまちづくり(Medicine-Based Town)計画が進んでいます。医学だけでなく、広く各界からもさらに多くの知が集い、成果を挙げ、国内、海外に発信する日を心待ちにしています。

末筆になりますが、私を育てて頂いた奈良県医科大学、それを支える各位に厚く御礼申し上げます。

就任のご挨拶



副理事長

林 洋

この度副理事長に再任いただきました。現職に就いて2年余が経ちましたが、本学には"良き医療人"の方々が思っていた以上にたくさんおられ、頼もしく心強く感じています。この機会に、日頃感じていることを少し申し述べたいと思います。

まず県と本学の関係ですが、"県あつての医大"と同時に"医大あつての県"と言えます。県行政全体の中でも本学をはじめとする医療分野のウエイトは非常に高く、相互の理解と信頼関係が何よりも大切です。現在将来像の策定やキャンパス整備検討など両者が密に連携して取組が進んでいますが、こうした流れを先々も続けていくことが大変重要です。

次に本学特に病院の経営ですが、施設等大きなハードは別として経常的な経営状況が悪いと、県の恒常的な介入と不信感を招き、自立的な運営に支障を来すことになります。現在病院を挙げて9つのプロジェクトに精力的に取り組んでいただき、全国国立大学病院の中でもトップレベルの実績が上がっていることに頭の下がる思いですが、まだ改善の余地があることや、E棟の投資が主要因とはいえ今年度から当分は赤字が見込まれること等から、一層の取組が求められるところです。

次に医療人の育成、地域医療、救急医療等の地域貢献ですが、これも概ね順調に成果を上げていただき、有難く思っています。本学は公立大学ですし、高度・専門・先進等の医療分野とともに文字通り車の両輪となっていけばと思います。

そして県行政出身の副理事長の主要な役割ですが、大きく1つは、上記3点を中心に大所の状況・動向を注視し、適宜所要のフォロー・サポート等対処することがあげられます(幸い就任以来これまで大事はなく、何よりに思っています)。

もう1つは、情報セキュリティ、防災等の危機管理、入札・発注などいわば"静脈"の仕事で、日頃忘れられがちですが大変ベーシックで重要な事柄です。事が起きた際に本学の"不作為の人災"とされ、事後処理に追われて本来業務に多大な支障を来すことのないよう、平時からの備えに中心的な役割を果たしてまいりたい所存です。

最後に高齢化が一段と進む中、自身のライフワークとしても、特に地域包括ケアに積極的に関わって行ければとの思いを強くしており、奈良医大モデルの進展にも期待しています。

引き続きお世話になりますが、宜しくお願い申し上げます。



総務・経営担当理事
事務局長

中川 裕介

この度、4月1日付で、山下前理事の後任として、総務・経営担当理事、事務局長を拝命しました。荒井知事が就任されて、重点的に力を入れておられる分野の一つが、「地域医療の充実」です。また、奈良医大に大変期待されていると共に、今年度は、奈良医大の将来にとって、非常に重要な年として位置づけられています。

皆様も、ご存じのとおり、奈良医大及びその周辺部の再整備を行う、新しいまちづくりが計画されています。間近では、E棟の今秋供用開始やA棟改装整備計画、大学では、教育・研究部門の移転整備、附属病院では、外来・医局を中心とした新棟、立体駐車場等の整備、まちづくりでは、医大新駅招致、民間による附属病院と連携した施設等の整備など、ビッグプロジェクトが検討されています。今年、これらの計画の基本的な考え方や進め方等を具体的に検討する時期であります。細井理事長・学長は、この機会を「奈良医大の未来への飛躍」と位置づけられ、また、奈良医大の存在感を高めるため、種々の改革・改善を推進されると共に、積極的に新しいことに取り組まれています。

これらを確実に推進するために、私は奈良医大の内外を問わず、あらゆる部門と連携を密にしながら、それぞれと風通しを良くし、一致団結して、奈良医大を飛躍させるために、微力ながら、全力を尽くす所存です。どうか、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。



教育・研究担当理事
副学長・医学部長
医学科長・附属図書館長

車谷 典男

このたび、左記の職を拝命いたしました。専任として医学部長たる副学長と、兼任として附属図書館長と新設された医学科長を担当させていただくことになりました。また、本学は公立大学法人奈良県立医科大学によって運営されていますが、その法人組織の理事としても務めさせていただくこととなります。任期はいずれも2年です。

去る2年間、「奈良県立医科大学教育改革2015」の理念と実行項目を策定し、一部先行導入を進めてまいりました。医学看護学合同授業(教養教育部門)の新設、良き医療人育成プログラムの策定、臨床手技実習の早期開始、海外研究室配属の実現、臨床英語の強化などです。これからの2年間、これらが地に着いたものとなり、全国に誇れる本学独自の医学看護学教育プログラムになるよう、学生・教職員の皆様のご意見とご協力を得ながら、最大限の努力を傾注していきたいと思っております。兼務させていただく図書館長としては、キャンパス移転を念頭に、高度情報センター構想の具体化が重要な任務になると考えています。同時に、現図書館機能の最大化を図っていきたいと思っております。よろしくごお願い申し上げます。



医療担当理事
副学長・附属病院長

古家 仁

このたび本学附属病院病院長として細井理事長・学長から命を受け再任となりました。これまでの4年間病院長として病院経営や安全対策など試行錯誤しながら前進してきました。その中で2年前から8つのプロジェクトを始めました。大学病院のような大きな所帯、しかも各医局、各部署がある意味独自に運営を行っている環境で病院全体の方針をすべての職員にまで浸透させ病院運営に対する協力を得るためには、単にかけ声ではだめで各職員が自覚を持つ必要があると考え、少しでも多くの人たちが関わることができるようにいろいろなプロジェクトを立ち上げました。すべてのプロジェクトがまだまだ道半ばですが、それでも多くの成果を上げてきています。保険診療、入院診療、外来診療、手術医療、医薬材料管理、医療安全・医療の質、がん診療、救急医療、など医療従事者として必須の内容ばかりです。紙面の都合でそれぞれのプロジェクトの内容まで言及できませんがぜひ機会をみて内容を知って参加して欲しいと思います。

大学病院はすべての面で厳しい状況に置かれてきています。今まで以上に皆様のご理解ご協力が必要です。どうかよろしくお願いたします。



研究部長・医学研究科長

嶋 緑倫

この度、研究部長を再任され、新たに医学科研究科長を拜命いたしました。現在、本学はキャンパス移転に向けた将来構想の中で大きく変革しようとしています。その中でも研究の活性化は教育・診療と並んで大きな柱です。2年前に研究部長に就任して以来、奈良医大の研究の将来構想の策定にかかわらせていただきました。奈良医大の研究は各教室単位に全国レベルの研究が実施されています。しかしながら、トップ10をめざしてさらに飛躍していくためには研究環境の整備、マンパワーの確保、教室を越えた研究連携体制や重点研究の推進など様々な課題があります。また、明日の研究を支える大学院や修士の充足率を高めることや科研等研究費の獲得を推進することも重要なミッションです。さらに、産学連携の推進は奈良県の医療産業の活性化にもつながるものであり、今後の進展が大いに期待されます。本学が一丸となってこれらの課題に向かって進んでいけるように少しでもお役に立ちたいと思います。どうぞよろしく御願申し上げます。



看護学科長・看護学研究科長

飯田 順三

この度、4月1日付で看護学科長と看護学研究科長に任命されました。看護学科は今年で開設13年目を迎えます。前任の軸丸看護学科長のご尽力により、これからの医療を見据えて新たに在宅看護学領域が設立されました。また本学卒業生の県内就職率は60%を超え、すでに中期計画を達成しています。大学院も開設より5年目となり、定員を満たすようになり、特に助産コースでは高い競争倍率となり、その名が広く知られるようになってきました。看護学科は漸く黎明期から発展期に入ってきました。これからは量より質の時代に入ってきます。看護学科に優秀な学生を集めるためには、教員ひとりひとりが熱意をもって学生の教育に当たると同時に、素晴らしい研究成果を出すことが必要です。充実した研究ができるような仕組みや環境整備に尽力したいと思っています。大学院も修士課程だけではなく、博士課程やCNSコースの設置を検討する必要があります。さらに、キャンパス移転が喫緊の課題であります。今後数十年に亘って、学生が集まり、教員も集まる、高度な教育・研究ができる新キャンパスを創造していかなければなりません。教職員の皆様のご指導とご支援をよろしく御願申し上げます。



教養教育部長

酒井 宏水

このたび、平成28年度教養教育部長に再任されました。医学科・看護学科の一般教育組織の統合により、平成27年4月に教養教育部門が新設されました。大学を挙げての新しい構想が、ここにきて次々と具体化されてきました。例えば、平成28年度から医学科入学生は、教養教育が1年間に集約されること、臨床英語の導入、第二外国語に代わって西洋/東洋文化論が導入されること、単位を落としたら仮進級が出来なくなること、また医学科と看護学科の合同科目が導入されること等、新しいカリキュラムの試みが始まりました。さて、教養教育部門は、自然科学、人文科学、社会科学、外国語など多様な分野の教員によって構成されているため、学問の垣根を越えるとなかなか理解が及ばないことがあります。また変化が速ければ、様々な課題が生じてくる可能性が高くなります。課題があれば定例の協議会等でも議論を尽くし、少しでも良い方向に解決されるようにしたいです。このような変化の速い時期に教養教育部長に再任され、責任の重さを感じている次第です。皆様のご協力とご支援をいただきたく、宜しく御願致します。

就任のご挨拶



基礎教育部長

吉栖 正典

この度4月1日付で基礎教育部長に再任されました。2年前に基礎教育部長を拝命してから、本学の医学教育は大きく変革いたしました。車谷医学部長が主導された「奈良県立医科大学教育改革2015」が策定され、本学独自の6年一貫教育として「良き医療人育成プログラム」が導入されています。新しいカリキュラムはこれに沿って、人間性教育・倫理教育・医療安全教育にさらに力を入れて行こうとするものです。そして2016年3月には医学教育分野別評価を受審し、本学の医学教育の良い点と改善すべき点が指摘されました。教育の評価もプロセス評価からアウトカム評価へと変わって行こうとしており、学生のみならず教員の側も意識の変革が求められています。2年前の挨拶では、学生との意見交換を活発にしたいと申しましたが、今後さらに学生の意見に耳を傾けて教育を良いものにしていきたいと考えています。本学の医学教育の目的は学生を将来、立派な医師や医学研究者へと導いていくことであり、基礎医学系教員の先生方と緊密な連携を取って教育を進めていきたいと考えています。教職員の皆様方のご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。



臨床教育部長

吉川 公彦

この度、4月1日付で臨床教育部長を拝命いたしました。臨床教育の目的は、講義による医学知識の習得のみならず、卒後の研修・診療に準じた環境での積極的な患者診療に関わる診療参加型臨床実習を通じて、優れた人間性と洞察力、独創力を有し、地域から世界にまで通用する幅広い見識を備えた医師を育成することと考えています。そのためには以下の4点が重要と考えています。

1. 基礎医学との縦断的（連続的）統合や1つの講義テーマにできるだけ複数の教室が参加し、統合した視点を養う水平的統合講義を増やす。
2. 臨床実習、選択実習、地域での臨床体験実習を通じて、より医療現場に密着した臨床教育を行い、卒前・卒後教育のシームレス化を実践する
3. 臨床英語の充実と海外施設との研修・交流や国際学会への参加を推奨して国際感覚を養う。
4. 学部研究生制度を通じて、各科のカンファレンスや基礎的・臨床的研究へ積極的に参加し、研究者としてのマインドを醸成するとともに、今後のキャリアデザインや仕事に対する考え方を学ぶ。

先生方と緊密な情報交換を行い、人間性豊かで優れた臨床能力とリサーチマインドを持った医師の輩出に向けて微力ながら取り組む所存ですので、皆様方のご指導とご支援をお願い申し上げます。



看護教育部長

石澤 美保子

このたび4月1日付で看護教育部長に再任されました。これまでの2年間を振り返りますと、医学部全体のこととしては「医学・看護学合同科目」新設のための看護学科内の科目検討および決定に携わりました。車谷医学部長のリーダーシップと教育支援課のご担当者として一丸となって進めることができ、無事文科省から承認の通知が届いたときは大変嬉しく思いました。看護学科内における教育部長の役割は、一言で言えば教育に関する全てのことになりますが、学生と教員に対する物的、人的の観点からの環境調整をまず行うことです。基礎看護学および在宅看護学領域の教授不在の間は、教授代行をすることでそれぞれの領域の特徴や重要性を再認識しましたが、教授不在の間も当該領域の先生方の努力のお陰で、問題なく無事新教授を迎えられたことに感謝しております。

この2年間、前学科長の軸丸清子先生が寝る間を惜しんで看護学科内のあらゆる問題に目を向け、緻密にそして誠実に取り組まれる姿を拝見し、部局長としての責任を常に痛感しておりました。看護学科のこれからの2年はまさに移転に向けての本格的準備に入る時だと思えます。飯田順三新学科長の下、教育部長として学生と教員がやりがいをもって本学で過ごしていけるよう、微力ですが努力して参りますので皆様方のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



在宅看護学 教授

小竹 久美子

この度、4月1日付で在宅看護学教授に就任いたしました。

在宅看護は、在宅での療養だけではなく、入院中から在宅へ戻ることを想定して、今までどのように生きてきて今があるのか、今後どのように生きたいと思っているのか、人生ストーリーでその人を捉え、生活の視点で看護実践をする分野です。看護の対象は、全ての年齢層における療養者とそれを支える家族や周囲の人々であり、在宅看護は、看護の原点と言えます。

奈良県立医科大学は、医学を基盤とした奈良のまちづくりの拡張構想を計画しており、在宅看護を重視した画期的なものです。日本で初めて、在宅看護を目指す人のための奨学金制度がこの奈良県立医科大学で設けられ、学生のうちから在宅看護力を高める人材を養成する段階へと着々と進んでいます。

日本の歴史が始まった奈良で、新しい日本の歴史が刻まれようとしている時期に教授として赴任できたことに感謝しております。奈良の住民の皆様が互いに助け合い、病気を持ちながらも街で安心して暮らせる支援ができる人材育成をめざして、がんばる所存です。幾分にも未熟者ではございますので、皆様のご指導、ご鞭撻のほどをどうぞよろしくお願い申し上げます。

法人の新しい組織

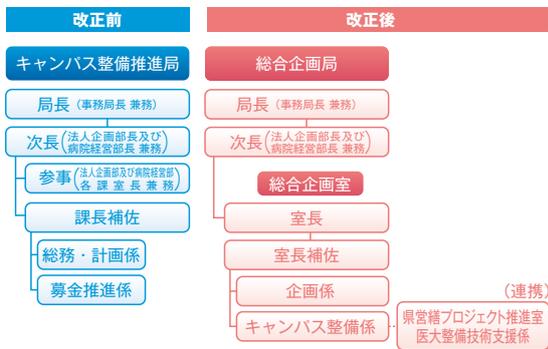
1. 組織編制・人員配置の考え方

- ◆キャンパス整備に向けた施設整備基本構想策定の推進
- ◆法人全体の企画機能の強化
- ◆施設管理部門の集約
- ◆研究支援体制の強化
- ◆中央臨床検査部における遺伝子検査体制強化

2. 主な組織改正案

(1) 総合企画局(キャンパス整備推進局から名称変更)の充実

- ◆教育・研究機能の移転及び病院再整備にかかる施設整備基本構想の推進
- ◆法人全体の企画部門の設置
- ◆キャンパス整備及び医大周辺まちづくり推進に向けた県との連携



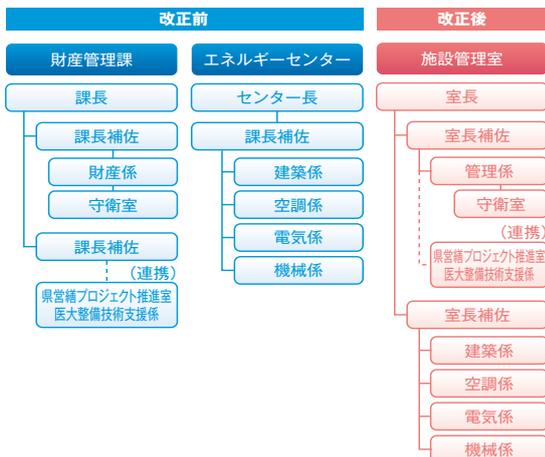
(2) 研究推進課の係再編

- ◆研究企画の推進および科研費を含めた競争的資金の採択推進支援の強化



(3) 施設管理室の設置(財産管理課及びエネルギーセンターを統合し名称変更)

- ◆財産管理課の所管する、キャンパス移転に関する業務を総合企画局へ移管
- ◆財産管理課、エネルギーセンターを統合し、施設管理の役割を集約



(4) 中央臨床検査部の組織再編

- ◆患者の早期診断、迅速な治療効果判定のため、遺伝子検査係を新設



(5) 臨床研究センター体制整備

- ◆臨床研究中核病院を目指した体制整備
- ◆質の高い臨床研究を行えるよう支援体制の強化



3. 課、係の名称変更

- ◆財務企画課 → 財務会計課
- ◆財務企画課 出納係 → 財務会計課 会計係

平成 28 年度 公立大学法人奈良県立医科大学予算

平成28年度で4年目を迎える第2期中期目標の確実な達成、「医大の将来像策定会議」における議論を踏まえた「施設整備基本構想」の策定、E病棟の竣工・供用開始に伴う経費の増などの法人が直面する課題に対応するため、中期計画の遂行、キャンパス整備検討に必要な予算について、県等からの支援を活用し、必要な予算を確保するとともに、収入確保や経費削減、投資効果の検証など経営改善策の推進に主眼をおいた予算編成を行いました。

予算規模については、E病棟整備の第2期工事が竣工を控え経費が大幅に減少する反面、附属病院収入の大幅な増、それに伴う診療経費の増、人件費の増などにより、平成27年度とほぼ同額の約480億円となり、前年度に引き続き、規模の大きい予算となりました。

平成28年度の主な取り組みとして、「奈良県立医科大学教育改革2015」の本格実施や土日ERの運用継続、外部有識者委員会の運営など「医大の将来像策定会議」において議論された内容を実施していきます。

また、「本学の目指すべき将来像」について、引き続き策定を進めるとともに、「施設整備基本構想」「施設整備プラン」の策定を行います。

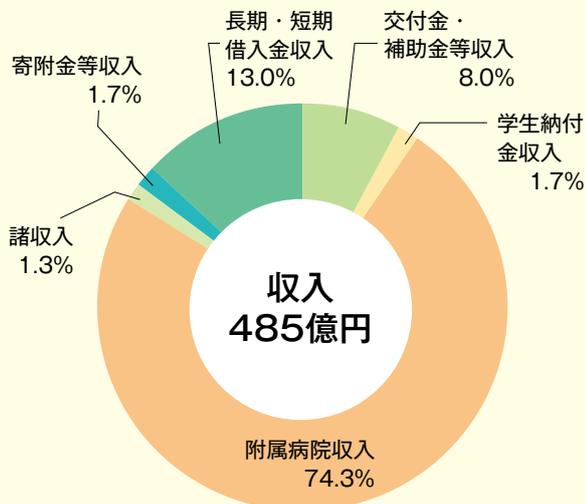
更に、「MBT構想」の推進、「臨床研究中核病院」承認取得に向けた取組の実施など医科大学トップ10を目指した取り組みを引き続き行います。

法人の更なる発展のため、中期計画の円滑な遂行、効果・効率的な法人経営の推進について、教職員のみならず、それぞれの分野でのご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

平成 28 年度予算の内容

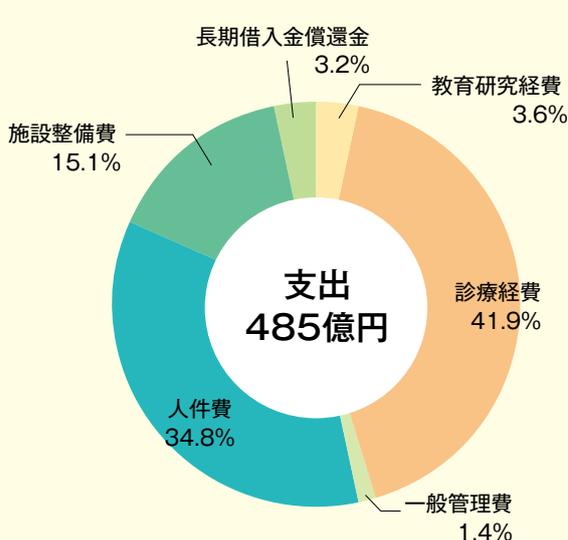
【収入】

項目	予算額	構成比
法人が自ら得た収入 (自己収入)	374.6 億円	77.3%
附属病院の診療報酬等 (附属病院収入)	360.0 億円	74.3%
学生が納付した収入 (授業料・入学金・入学検定料)	8.2 億円	1.7%
その他の収入 (諸収入)	6.4 億円	1.3%
他機関等からの支援 (交付金・補助金)	38.6 億円	8.0%
県からの支援 (運営費交付金等)	24.7 億円	5.1%
国等からの支援 (補助金収入)	13.9 億円	2.9%
職員が集めた収入 (受託研究・寄附金等収入)	8.4 億円	1.7%
借金の借入 (長期借入金等収入)	63.1 億円	13.0%
収入計	484.7 億円	100.0%



【支出】

項目	予算額	構成比
義務的に支払う必要のある経費 (人件費、償還金)	183.9 億円	38.0%
職員への給与の支払い (職員給与)	163.7 億円	33.8%
退職手当の支払い (退職手当)	4.6 億円	1.0%
借金の返済 (長期借入金償還金)	15.6 億円	3.2%
業務の運営に必要な経費 (業務費等)	227.4 億円	46.9%
大学での教育研究に必要な経費 (教育研究経費)	17.7 億円	3.6%
附属病院での診療に必要な経費 (診療経費)	202.9 億円	41.9%
法人の運営全般に必要な経費 (一般管理費)	6.8 億円	1.4%
施設整備や医療機器購入経費 (施設整備費)	73.4 億円	15.1%
支出計	484.7 億円	100.0%



平成 28 年度予算の 主要事業・新規事業

地域貢献

(適切な医師派遣システムの確立、学生の県内就職率の向上)

- 県立医大医師派遣センターの運営
- 県費奨学生配置センターの運営
22,200千円(H27 19,700千円)
県内の医師派遣システムを適切に実行

- New** ● 在宅医療看護人材育成支援奨学金
6,000千円
県内における在宅看護を牽引するリーダー育成のため、一定の要件を満たす者に奨学金を貸与



- 土日ERの運用
46,400千円(H27 34,000千円)
「断らない救急医療」実現のため、後方支援病院との連携を図り、引き続き土日ERを運用

教育・研究部門

(学生生活支援体制の充実、将来を担う優秀な学生の確保、研究成果の地域への還元、研究支援体制・研究環境の充実)

- 「奈良県立医科大学教育改革2015」の実施
42,300千円(H27 3,500千円)
医大の将来像策定会議での議論を踏まえ、教育改革を実施

- New** ● 大学院入学料減免事業
(医学研究科・看護学研究科)
2,200千円

- New** ● 大学院奨学金(大学院博士課程)
12,500千円
入学希望者の負担を軽減し、課程修了者の広い輩出を目的に、一定の要件を満たす者に入学料の減免措置や奨学金を貸与

- New** ● 学外有識者委員会運営費
2,000千円
教育・研究・診療各分野への評価・提言をいただく「学外有識者委員会」の運営費

診療部門

(法人の将来を見据えた大規模な投資、患者サービスの向上、病院機能の充実)

- New** ● E病棟完成記念事業
2,300千円
平成28年度に完成するE病棟の竣工式・内覧会開催経費

- E病棟整備事業
4,709,700千円(H27 8,724,900千円)
中南和地域における高度医療拠点病院として機能充実を図るため、新病棟(E病棟)を整備

- 病院機能評価受審事業
23,000千円(H27 700千円)
平成29年2月に受審予定の病院機能評価認定更新に向けた準備費用

- New** ● 総合医療情報システム更新準備事業
5,000千円
平成30年度に予定しているシステム更新に向けた準備支援委託経費等

- New** ● ドクターヘリ運航施設整備事業
506,000千円

- New** ● ドクターヘリ運航推進事業
54,700千円
平成29年1月からのドクターヘリ運航に向けたヘリポートの整備及び運航委託経費

まちづくり

(医科大学を中心としたまちづくりの推進)

- 奈良医大MBT構想の推進
一般社団法人MBTコンソーシアムに参画し、橿原市や会員企業等と連携してMBTに関する諸事業を実施

- New** ● A棟改修事業
78,900千円
臨床医学研究棟の仮移転先としてA棟改修を実施(H28 基本・実施設計費)

管理部門

(法人組織の円滑な運営・福利厚生の充実、事務の合理化の推進)

- New** ● ストレスチェック事業
3,800千円
労働安全衛生法の改正に伴い義務付けられたストレスチェック対応経費

- 募金推進事業
15,000千円(H27 9,700千円)
「未来への飛躍基金」への募金を集めるための各種取組を実施

個人で考えチームでベストを

奈良医大陸上部は、医学科看護学科合わせて男子9名女子10名で構成され、月・水・金の授業後、大学から自転車で10分ほどの所にある橿原公苑陸上競技場で活動しています。練習は短距離・中距離・長距離に分かれて行い、各々が自己ベストを出すべく高い意識をもって練習に取り組んでいます。

奈良医大陸上部の最大の特徴は、毎回の練習を陸上競技場で行える点にあります。これは、橿原市が一般市民に陸上競技場を無料開放しているサービスを利用している形になっていて、本番と同じ最高の環境で練習を行えます。

練習において最も意識していることは、“考えて走る”ことです。ただがむしゃらに走るのではなく、一本走るごとに、何秒で走る、だったり、フォームを意識する、といった目標を設定し、それに向かって走ることを徹底しています。そして、練習後にミーティングで一人一人今日の練習の反省と次回の目標を話すことで、自分の現状を見直し“自分”を高めています。また、走るときだけでなく、練習メニューを決める際も、各パート長が独断でメニューを決めるのではなく、部員が各々の課題を考え、それを克服できるようなメニューを先輩後輩関係なく提案し合っています。そうすることで、“チーム全体”も高めあっています。

なので、自己ベストを出した時の達成感のはかり知れず、他の部員も全力で応援し祝福します。これが陸上競技の最大の魅力です。

陸上競技は初心者には厳しそうに見えるかもしれませんが、走る、投げる、飛ぶ、だけなのでむしろ誰でも簡単に始め



陸上部

部員 ▶ 19名

顧問 ▶ 長谷川正俊(放射線腫瘍医学講座教授)

主将 ▶ 酒井鷹平(医学科4年)

練習日 ▶ 月、水、金

られ、練習メニューも個人のレベルに沿ったものをこなせるので全く心配ありません。試合も必ず全員が出ることが出来ます。実際部員の半数は初心者で、特に最近ではマラソンを始めたいという人が多く、奈良マラソンにはたくさんの部員が参加しています。部員の仲もよく楽しい部活です。是非一度陸上部へ遊びに来てください。

「はいちーず！」

奈良医大写真部は医学科14名、看護学科2名の計16名で構成されています。部員が集まる主なイベントは春の撮影会、新歓、追ひコンですが、各々個人で様々な場所へ撮りに行っています。一声かければ皆集まって撮影会に行くので、好きな季節に好きな場所へ遊びに行くことができます。ほとんどが初心者で、一眼レフなど本格的なカメラを持っている部員もいれば、デジカメや携帯で撮っている部員もいます。中には写真展に応募している部員もいます。

昨年は撮影会を増やしたり、文化祭など学校行事や学会などの撮影を依頼されたりと、年々活動の場が増えてきています。今年は宿泊込みの小旅行を考えています。

奈良医大から近い場所であれば藤原京跡や久米寺など、たくさんの写真スポットがあるように、奈良は日本の中でも特に四季を感じやすく、写真家達がたくさん集まる場ですので、ぜひカメラを手に足を運んでみてほしいと思います。

学年、性別、学科に関係なくとても仲の良い部活なので興味があればぜひ春の撮影会に参加してみてください。部員一同お待ちしております。



写真部

部員 ▶ 16名(卒業生3名)

顧問 ▶ 浅田秀夫(皮膚科学教授)

主将 ▶ 阿部咲良(医学科5年)

練習日 ▶ 自由

キャンパス整備に向けた将来像の中間取りまとめを行いました

これまでもご紹介しているとおり、本学は、教育・研究部門の新キャンパスへの全面移転と、現キャンパスでの附属病院施設の抜本的充実を図るという、新しい奈良県立医科大学づくりの機会を迎えています。この機会を単に施設整備だけでなく、本学が未来に向かって飛躍を遂げるための基礎づくりの機会にすることとしています。

そこで、数十年先を見据えた本学の将来像を定め、これを未来に向かっての着実な歩み、大きな飛躍を期する道標とするべく、平成26年に県と共に「医大の将来像策定会議」を立ち上げ、これまで、本学のあるべき姿や目指すべき方向について検討を進めてまいりました。

将来像は、第2期中期計画策定時の考え方を踏襲し、「教育」・「研究」・「診療」・「まちづくり」・「法人運営」の5分野から構成することを想定しています。今般、このうち「教育」・「研究」・「診療」に関して素案を取りまとめましたので、『中間取りまとめ案』として法人の教職員・学生全員に冊子を配付して内容を紹介し、アンケート等によりご意見をいただくこととしています。

いただいたご意見は、将来像成案の策定に向けて大いに参考にさせていただき、有意義な提案は積極的に取り入れた上で、平成28年度末に「まちづくり」・「法人運営」を含む最終取りまとめを行う予定です。

将来像の完成には、法人関係者全員の知恵と見識を集めることが不可欠であり、また、全員が一丸となって策定に関わることにより、将来像が真に意味のあるものになると考えておりますので、積極的にご協力、ご参画いただきますようお願いいたします。

中間取りまとめ案の構成（3部で構成しています）

I 将来像策定の考え方と構成

下図のとおり、本学のU I（ユニバーシティ・アイデンティティ）確立の取組と位置付け、構成しています。

II 建学の精神、分野別の理念と方針

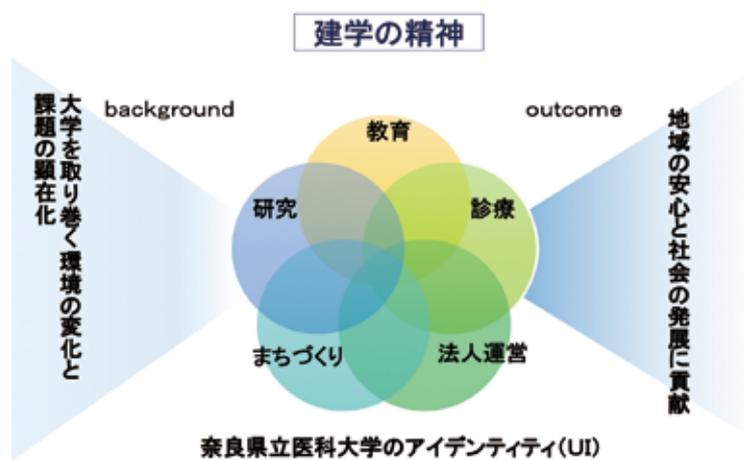
将来像の内容として、分野別の『理念』と『方針』、それらを象徴的に表す『建学の精神』を紹介します。

III 分野別の方針に関する取組

各分野の『理念』と『方針』を定めるに当たり、取り上げ、検討した取組について紹介します。



「奈良県立医科大学の将来像」
中間取りまとめ冊子



「奈良県立医科大学の将来像」
策定の考え方と構成

学報編集委員会 からのお知らせ

寄稿記事募集案内

「学報」では、奈良県立医科大学や附属病院に関する出来事、お知らせ等を掲載いたしておりますが、これらに関連する記事を皆様からも広く募集いたします。ご興味のある方は内線2206までお問い合わせください。なお「学報」は毎年1、4、7、10月に発行しており、本学教職員・学生のみならず本学同窓会会員や関連大学・病院等にも配布しております。



図書館利用カードが磁気から IC に

昨年、職員証・学生証が新しく IC 化されるのを機に図書館利用も IC 化されました。IC 化にあたり、磁気カードの早期回収にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

1 階の入退館システムが磁気から IC になったことにより、反応が早く、磁気不良の心配がなくなりました。また、自動貸出返却機も IC カードで利用できるため、平日の夜間や土日も職員証・学生証一枚でスムーズに利用できます。ちなみに、自動貸出機で 1 冊ずつ貸出処理をしている方をたまに見かけますが、本を台の上に複数冊置いて一括で貸出処理することも可能ですのでぜひお試しください。返却時も同様です。

また、他大学から論文の取り寄せができるサービス「My ないと」のログイン方法が新しくなりました。今まで、教職員の方には赤いカードの番号をログイン ID として利用いただいていましたが、IC 化に伴い職員番号でご利用いただけるようになりました。学生の方は学籍番号がログイン ID となります。以前から My ないとサービスをご利用の方は新しい ID への移行にご協力をお願いいたします。なお、新しくサービスを利用したいという方は登録が必要です。詳しくは図書館までお問い合わせください。



で利用している学生が多いことから、より動かしやすく、利用しやすいものを導入しました。新しいデスクはコマつき、チェアは長時間座っていても疲れにくいウレタン素材の座面のものにしました。また、新しくホワイトボードを 4 台設置しました。こちらコマつきですので、ホワイトボードとして、またはパーティション代わりに使っていただけます。どなたでもご利用いただけますので、ぜひご利用ください。

なお、自習室で不要となった机や椅子の一部を隣のブラウジングルームへ移動させました。ブラウジングルームは図書館内で唯一飲食のできるスペースですので、バラバラの椅子の中から好みのものを選んでくつろいでいただければ幸いです。

1 階と 3 階のトイレが新しくなりました

照明が暗く、年季が入っているため「汚い」「暗い」「怖い」と評判がよくなかった図書館のトイレがついに新しくなりました。和式が洋式になったことはもちろん、自動水洗、洗面台一新、さらに 1 階の照明は人感センサーです。また、施設担当の方の粋な計らいで明るくポップな壁紙が各所に使われており、女子トイレだけでなく男子トイレもかわいらしくなりました。1 階のトイレは想定外の工事を伴い一筋縄ではいきませんでした。なんとか年度内に終えることができました。新しくなったことにより、より図書館に腰を落ち着けて勉強できるようになりましたので、長時間勉強したい方、ぜひ図書館をご利用ください。最後に、利用者の皆様には工事中に騒音等でご迷惑をおかけしました。ご理解、ご協力いただきありがとうございます。



自習室のデスクとチェアを一新

2014 年に事務スペースを改修し 3 階に新しくできた自習室、当初は各フロアから寄せ集めた長机と事務用の椅子などを並べていましたが、グループ学習をするため椅子や机を動かし



同志社女子大学と共催で院内コンサートを開催しました

奈良医大と同志社女子大学は、教育・研究・診療に関する相互支援、学生の相互支援、教職員の相互講習、社会貢献に関することなどを目的として、学術交流に関する包括協定を締結しています。

この一環として、シンポジウムや附属病院での同志社女子大学の学生による院内コンサートなどを開催しております。去る、2月24日(水)北玄関口において、同志社女子大学の学生による院内コンサートを開催しました。院内コンサートは入院患者の方々に大変喜ばれているとともに演奏くださる学生のみなさんにとっても学びの成果を他の人に活かすという貴重な体験の場となっています。



院内コンサートの様子

今回のシンポジウムは、

日時：2016年6月18日(土) 14:00～(開場 13:00)

場所：同志社女子大学

今出川キャンパス S013 (純正館地階)

京都市上京区今出川通烏丸東入

対象：一般(入場無料)

内容：テーマ「女性の健康支援」

『巷に流れる“ダイエット情報”の落とし穴

～栄養学の視点から～』

小切間美保先生 同志社女子大学

(実践栄養学・教授)

『骨を守り生命を守る

～骨粗鬆症とぜい弱性骨折の少し怖い話～』

城戸 顕先生 奈良県立医科大学(整形外科学・講師)

平成28年度入学試験を実施しました

医学部医学科は推薦選抜、一般選抜(前期日程・後期日程)において合計1,375名の志願者があり、113名が入学することとなりました。また、第2年次編入学試験では27名の志願者があり、2名が入学することとなりました。

一方看護学科では、推薦選抜、社会人特別選抜、一般選抜(前期日程)において合計177名の志願者があり85名が入学することとなりました。また、第3年次編入学試験では7名の志願者があり、4名が入学することとなりました。

平成28年度入試結果

区分		募集人員	志願者数 (A)	受験者数	合格者数 (B)	追加合格者数 (Bの内数)	入学者数	志願倍率 (A/B)	前年度倍率
医学科	推薦(緊急医師確保)	13	147	134	13	0	13	11.3	15.4
	推薦(地域枠)	25	206	199	25	0	25	8.2	7.9
	前期	22	191	164	22	0	22	8.7	13.8
	後期	53	831	356	61	8	53	13.6	19.1
	編入学(研究医枠)	2	4	4	1	0	1	4.0	1.5
	編入学	1	23	20	1	0	1	23.0	23.0
	小計	116	1402	877	123	8	115	11.4	16.0
看護学科	推薦(地域枠)	35	64	64	35	0	35	1.8	2.4
	社会人	5	16	14	1	0	0	16.0	3.2
	前期(一般枠)	35	55	53	38	3	35	1.4	3.9
	前期(地域枠)	10	42	42	16	1	15	2.6	
	編入学(地域枠)	5	7	7	4	0	4	1.8	—
	小計	90	184	180	94	4	89	2.0	2.6
医学部	合計	206	1586	1057	217	12	204	7.3	9.6

女子中高生の医療分野進路選択支援 「私もなれる！いのちを支える専門職」を開催しました

女性研究者支援センターでは、内閣府男女共同参画局の採択を受け、女子中高生に医療分野において女性が活躍できる仕事が多数あることを紹介し、医療分野進路選択を促すためのイベントを平成28年1月11日(日・祝)奈良県文化会館にて開催しました。

当日は中高生、保護者合わせて約140人の参加がありました。

開会にあたり、細井裕司学長より「奈良医大の長として、本学を男女共同参画の先進大学にしていきたいと考えている。本学が進めるまちづくりにおいても、女性の視点を取り入れたいと思うので、女性がどんどん参画してくれることを祈念している。本日参加された女子中高生の皆様にも、理科系は男子、文科系は女子という昔の日本の社会風習を打破して欲しい」とのご挨拶をいただきました。

続いて行われた基調講演では、総合画像診断センター長の平井都始子病院教授が「私の歩んできた道、そしてこれから」というテーマの講演の中で、「諦めずに希望を持ち続けて努力すること

で、楽しいと思う仕事に出会うことができた」としたうえで、「命を支える現場で活躍する女性が増えることを願っています」と参加した女子中高生に応援のメッセージを送られました。

基調講演の後に行われたパネルディスカッションでは、医師、薬剤師、助産師、看護師として活躍する4名の女性が登壇。自身の進路を目指そうと思ったきっかけや現在の仕事のやりがいや喜びを紹介しつつ、これまでのキャリアをどのように積み上げてきたかについてお話をいただきました。

中高生のみを対象とした体験型学習医療ゼミナールでは同志社女子大学薬学部との協力を得て、2つのコースに分かれ外科・内科・薬学・助産・看護の実習を体験しました。最後に車谷典男センター長からご挨拶をいただき閉会となりました。

なお、開催の様子が1月11日放送の奈良テレビ「県政フラッシュ」において紹介されました。



平井都始子病院教授による基調講演



体験型学習（外科コース）の様子



体験型学習（内科コース）の様子

医学教育分野別評価のための実地調査を受けました

平成28年3月1日(火)～4日(金)に厳樞会館を主会場として、日本医学教育評価機構(JACME)が実施する医学教育分野別評価の実地調査を受審しました。全国80の医学部のうち、2014年度までに6校が受審し、2015年度は本学を含む6校が受審しました。医学教育分野別評価は、世界医学教育連盟(WFME)の国際基準に照らし、1. 使命と教育成果、2. 教育プログラム、3. 学生評価、4. 学生、5. 教員、6. 教育資源、7. プログラム評価、8. 統轄および管理運営、9. 継続的改良の計9つ

の領域に分かれていて、事前に提出した自己点検評価書をもとに厳正な評価を受けるものです。

評価委員による実地調査では、領域別検討会議や教養教育、基礎医学教育、臨床医学教育の各教員や若手教員、研修医、学生の面談、また、スキルラボや附属図書館の施設見学、臨床実習や講義の視察、研究室訪問も行われました。今後、所定の手続きを経て、評価結果は11月頃までに示される予定です。



平成27年度認知症対応力向上研修を開催しました

平成28年2月18日(木)・19日(金)、厳樞会館3階大ホールにおいて、平成27年度 認知症疾患医療センター認知症対応力向上研修を開催しました。

県内の認知症の医療・ケアの連携業務に従事する方を対象に、基幹型認知症疾患医療センターの大切な業務である認知症のネットワークの構築をするために、対応力の向上を図る研修会を開催しています。今回も定員を超える多くの応募があり、そのうちの33名に参加いただきました。

研修会は、認知症全般の基礎を当院のセンター担当医師、認知症認定看護師、臨床心理士、精神保健福祉士が講義を行い、また橿原市の地域包括支援センター職員を講師に招きグループワークを行いました。地域連携の重要性について認識できる内容となり、研修を通して質問や活発な意見交換が行われました。

今後も認知症疾患医療センターでは、地域との連携を通して認知症に対する県下の医療水準の向上を図るとともに、連携の基幹病院としての役割を果たしていきたいと思っております。



第5回大和漢方医学薬学セミナーを開催しました

2月14日(日)に基礎医学棟 小講義室において、株式会社ツムラとの共催による第4回大和漢方医学薬学セミナーを開催しました。このセミナーは、初級編からスタートし、中級編、上級編と3部構成で実施するものです。今年度は、上級編「～西洋医学の土俵の中で漢方をどう活かすか～」と題し中～上級レベルの漢方専門医取得を目指す医師を対象にセミナーを開催しました。

藤本眞一教育開発センター教授からのご説明に続いて、本学大和漢方医学薬学センターの三谷和男特任教授から「導入講

義」、「診断の実技～腹診・脈心・舌診による漢方的所見を探る～」、「症例検討～症例提示により処方決定までのプロセスを学ぶ～」、「総括・質疑応答」などの講義が行われ、本学附属病院ほか県内外の医療機関から24名の先生方が受講されました。

聴講の先生からの症例報告もあり、講師の三谷先生との間で診察法や漢方処方などについて熱心な質疑応答が交わされました。

当日は、10時～15時までの長時間のセミナーでしたが、今後も受講者のニーズを確認しながら種々のセミナーを開催します。



講義中の三谷特任教授



実技指導の様子

研究倫理教育研修会を開催しました

平成 28 年 1 月 7 日に制定した「公立大学法人奈良県立医科大学における研究活動上の不正行為の防止等に関する規程」に基づく研究倫理教育の一環として、3 月 8 日、15 日、24 日、29 日の 4 日間、研修会を開催しました。

8 日は(独)日本学術振興会参事で研究倫理推進室長の笹川光先生、15 日は NPO 法人オール・アバウト・サイエンス・ジャパン代表の西川伸一先生、24・29 日は車谷教育・研究担当理事がそれぞれ講師を務められ、研究倫理について研究不正の仕組みや内容、なぜ起こるのかなど、お話いただきました。

今年度から科学研究費助成事業に関しては、研究代表者及び研究分担者は研究倫理教育を受講することが科研費交付の要件と

されたので、平成 28 年度の科研費を申請された方、平成 27 年度に科研費に採択されている方は、3 月 31 日までにこの研修会を受講するか、指定されている研究倫理教育教材の通読(通読後申し立て必要)、CITIJapan e-ラーニングを受講していただく必要があります。



8 日 日本学術振興会笹川先生



15 日 オール・アバウト・サイエンス・ジャパン西川先生

ヒトゲノム・遺伝子解析研究研修会を開催しました

2 月 19 日(金)、ヒトゲノム・遺伝子解析研究研修会を開催しました。

この研修会は、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針[平成 13 年 3 月 29 日(平成 25 年 2 月 8 日改正)文部科学省、厚生労働省、経済産業省]」に「すべての研究者は、ヒトゲノム・遺伝子解析研究の実施に先立ち、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する教育及び研修を受けなければならない。」と規定されていることに基づき開催しました。

講師には、京都府立医科大学医学生命倫理学教授で、研究開発・質管理向上統合センター副センター長・研究倫理教育・管理部門長の瀬戸山晃一先生をお迎えし、「遺伝子検査と遺伝子差別～ゲノム・遺伝子解析研究

と遺伝学的情報のプライバシー：被験者の同意とパターンリズム～」と題して、ヒトゲノム遺伝子解析に関する指針の解説や、インフォームド・コンセントを得るときの考え方などについてお話しいただきました。

研修会は今後も定期的に開催していく予定です。

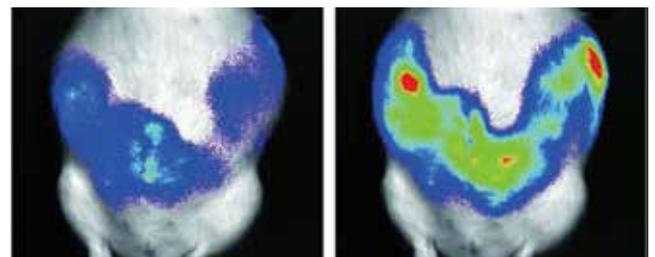


講演いただいた瀬戸山先生と研修会の様子

人工赤血球により低酸素ストレス下のラット胎仔の発育不良を予防することに成功

本学化学教室の酒井宏水教授は、国立精神・神経医療研究センターの太田英伸室長ほかとの共同で、低酸素ストレスに晒されたラット胎仔の発育不良を人工赤血球で予防することに成功しました。妊娠高血圧症候群では、原因物質 sFlt-1 等が胎盤血管の狭小化を引き起こし、母子間のガス交換、栄養物質の運搬、老廃物の代謝が低下し、胎児が低酸素状態・子宮内発育不全になるとされます。そこで本研究では、妊娠高血圧症候群で低酸素ストレスが加わる胎児への治療法を動物(ラット)で検討しました。狭小化した血管も通過できる粒径 250 nm の人工赤血球を母体に投与した結果、sFlt-1 が低下し、胎仔発育も促されることを確認しました。加えて、低酸素ストレスが与えた胎仔の脳へのダメージも抑えられました。本研究の成果

は Scientific Reports に掲載され、また日刊工業新聞、薬業新聞、科学新聞など各紙に取り上げられました。



図：人工赤血球投与により胎児が低酸素ストレスから解除され、胎盤・胎児からの生物発光が上昇し、酸素供給が増加したことを示す。Rosa26-luc ラットを用いて胎盤・胎児への酸素供給状態を可視化。左：投与前、右：投与後。

チェンマイ大学との交流

平成28年3月15日～3月24日までの10日間、タイのチェンマイ大学医学部4年生の学生4名(男性2名、女性2名)が来学しました。初日は学長への挨拶を行い、翌日からは、消化器・総合外科学、放射線医学、産婦人科学、第1内科学、精神医学、整形外科の6教室で研修を行いました。また、本学の学生とも大いに親睦を深めました。関係教室の先生や職員の方々にご協力いただいたことに深く感謝します。

また、本学からは3月26日～4月3日の日程で、5年生(新6年生)4名(男性4名)がチェンマイ大学を訪れ、現地の医療・医学事情等について研修を行いました。

これらは、本学とチェンマイ大学との間で1996年に締結された学術交流協定に基づくもので、今回の受入及び派遣で17回目となります。

今年もまたチェンマイ大学への交換留学生を募集しますので、チェンマイ大学で学んでみたい学生、興味のある学生の参加を期待します。



看護部活性化推進会便り

今回は2G(師長7名)による「師長に求められるマネジメントスキルを向上させる取り組み」について紹介します。師長達は、それぞれの部署の課題を解決したい、職場環境を整備し職員・職場を活性化したいという目的を持っています。

活動として、前半は評価ツールを用いた各部署の分析を行い、職場変容のポイントは内部要因のアプローチとして人材育成が重要であることが明確になりました。では人材育成のためにマネジメント力を磨くとはどうすればよいか?ということから、後半は「看護マネジメントリフレクション」を実践しました。

これは同じ役割を持つ複数の管理者が日々の経験を振り返

り、他者から質問や評価、他の管理方法などの示唆をもらい、気づきと学びを得る手法です。実際リフレクションを終えて、自分自身の考え方の傾向や自己認識が深まり、自己を客観視する重要性を学びました。リフレクション(内省)は職場を活性化させる有効なツールであり、続けることが必要だと思います。



MRI検査体制の刷新

MRI検査は、X線被曝が無く、優れた組織間コントラストや血管描出能を有することにより、スクリーニングから精査まで、その需要は増加の一途をたどっています。当院では、MRI検査装置3台(1.5T:2台、3T:1台)で運用してきましたが、依頼が多く、予約待ち時間が長くなることにより、周辺病院への検査依頼が多くなってきていました。一方、患者さんからは本院での検査の希望も多く、平成24年頃から病院全体でMRI装置増強の気運が高まってきました。

設置場所や設置台数を議論し、幾つかの候補を協議した結果、費用対効果等から判断して、従来あったMRI検査室の読影スペースや自動現像機の設置場所を整理して、どうにか新たに1台増設できる見通しが立ちました。

従来のMRI装置は平成13年(1.5T)、平成19年(1.5T)、平成21年(3T)に導入されました。平成13年に導入した装置はヘリウムの消費が多く、ランニングコストもかかっていたこともあり、3T装置へ更新し、さらに3T装置を1台新たに

導入し、計4台体制で運営する案を提案しました。収支の計算や他部署への影響等も十分に議論し、患者サービスと診療の質の向上、経営改善を目的に病院、大学の判断で導入されることが決定されました。

平成27年6月から平成27年度中完成を目指して工事を開始し、その間各診療科の協力の下、土曜日に1台を稼働させ、また平日は夜9時まで検査することで、MRI検査サービスが低下しないように勤務体制を変更し、対応にあたりました。

皆様のご協力の下、平成28年4月中旬からは、3T装置が3台、1.5T装置が1台稼働します。4台体制となりましたが、需要もさらに増加しており、待ち時間の大幅な短縮は不可能な状況ですが、お急ぎの場合は臨機応変に対応致しますので、連絡していただきますようお願い申し上げます。



総合防災訓練・災害医療訓練を実施しました

平成 28 年 2 月 22 日に学内全域を対象とし防災力の向上を図るため、総合防災訓練を実施、2 月 26 日には、当院の災害医療統括部を中心に、図上防災訓練を実施しました。

■ 総合防災訓練

総合防災訓練は学内全域を対象とし防災力の向上を図るため、大規模地震が発生したとの想定の下、2 部構成で実施しました。奈良県広域消防組合橿原消防署にも参加いただいた訓練は、総勢 100 名を超える大規模なものとなりました。

第 1 部訓練では大規模地震発生直後の人命を守る救出、救護、避難誘導の活動をはじめ、多発する火災に対する消火活動などを「災害対策本部」「自衛消防・防災隊」「病棟」の各組織が連携して総合的に行いました。

災害時にすべきことを具体的なイメージとして多くの職員が共有できたと思います。また、その中で出てきた課題を認識できたことも大きな成果であると考えております。このような訓練を繰り返すことで、実際に災害が起こったときにも、全職員が慌てず、すべきことを理解してスムーズな行動をして、より多くの人を救命することにつながります。

▶ 自衛消防訓練 (第 1 部訓練)

震度 6 弱の強い揺れが観測され、大講堂、厳糧会館、救急 HCU、A 棟 7 階北では火災発生及び要救出者が生じたとの想定の下、自衛消防・防災隊の各地区隊が消火、救出、救護、避難誘導活動を行いました。

さらに救急 HCU、A 棟 7 階北では、アクションカードを活用した実践的な活動を実施。また、模擬患者の担架搬送・介添え誘導訓練に取り組みました。



▶ 訓練検証会、消火器取扱い訓練 (第 2 部訓練)

訓練検証会を開催。橿原消防署 高島署長・担当直長からそれぞれ 1 部訓練に対する講評をいただき、また同時に屋外では水消火器による消火器取扱い訓練を実施しました。



■ 図上防災訓練

災害医療統括部を中心に、図上防災訓練を実施し、大規模地震が発生したとの想定の下、現行の「災害医療対策基本マニュアル」の実効性や有効性を検証しました。

当院は奈良県唯一の基幹災害拠点病院であり、地震などの災害発生時には短時間の間に多数の傷病者の搬送・来院が予想されます。しかし、災害時の医療資源（医療スタッフや器材、医薬品など）には限りがあり、制約された条件下で 1 人でも多くの傷病者を救うためには、病気や怪我の緊急度や重症度によって



訓練の様子

訓練フェーズ	災害医療統括部 (本部)	災害医療統括部 (各班)
1 体制構築後の初動対応 (受入準備)	<ul style="list-style-type: none"> 院内の被災状況の把握 診療体制の確保 災害対策本部への概況報告 (受入可否等) 	<ul style="list-style-type: none"> 各部の参集状況、安否状況確認 各部施設、設備等の被害の概況確認 通常診療の停止 救命救急センターとの連携 診療スペースの確保 医薬品、診療材料の確認
2 受入対応	<ul style="list-style-type: none"> 負傷者受入状況の把握 治療、処置状況の把握 災害対策本部及び関係機関等からの要請への対応 	<ul style="list-style-type: none"> トリアージの実施 最優先治療群 (赤タッグ) への対応 非緊急治療群 (黄タッグ) への対応 軽処置群 (緑タッグ) への対応 救命困難群 (黒タッグ) への対応 患者の入院収容、診療

表 1：各フェーズにおける対応

初期治療や後方搬送の優先順位などを意思決定していく必要があります。また、そうした状況の中、院内の被災状況や職員参集状況の把握、必要物資の確保等迅速に対応しなければならない問題が次々に起こり得ます。

今回の訓練には、主に災害医療統括部の本部員及び事務局、また看護部災害委員（災害医療統括部各班として参加）等の約40名が参加しました。初動対応（フェーズ1）と受入対応（フェーズ2）の二つのフェーズに分け（表1）、特に現場から本部への情報伝達、本部から現場への指揮・命令の確認訓練に力点を置きました（図1）。各フェーズ終了後には、グループ間で討議なども行い災害時に自分達のすべきことを確認しました。訓練を通して様々な課題が明らかとなりましたが、それらを職員間で共有できたことは大きな成果であり、今後組織の見直しやマニュアルの改定等につなげていく予定です。今後も継続的に訓練を実施し、さらに参

加対象者も広げ、より実践的な経験を蓄積していきたいと考えています。

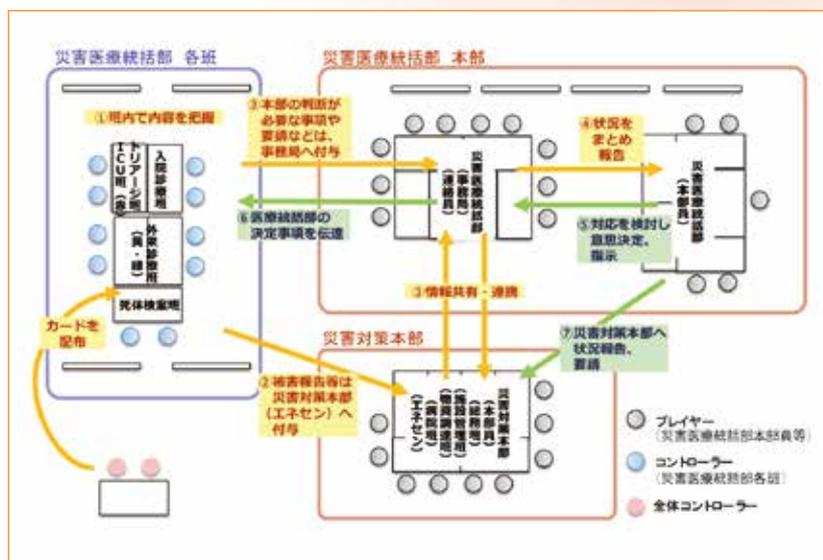


図1：情報伝達及び指揮・命令系統の流れ

BLS研修を実施しました

平成28年度がスタートしました。今年度は友田室長（専従）を筆頭に、恵川副室長（兼任）、山岡室長補佐（兼任）、薬剤師田中主任主査（兼任）を新しく迎え、さらに充実した医療安全推進室となりました。

今年度最初の活動として、4月4日新規採用者を対象に医療安全管理研修を行いました。内容は、医薬品安全管理研修、医療機器安全管理研修、BLS研修と3つの研修をローテーションして受講する形態でした。中でもBLS研修は、例年夏～秋に時間外研修としたものをガラッと変更し、新入職者オリエンテーション時の半日を活用し全員実施するという企画にしました。今年度の対象者は約200名であり、体育館に20ブース設置しました。受講生は胸骨圧迫の重要性やAEDの使い方を実際に体験することができ、「学生の時経験していたが忘れていたのでよかった」「定期的にしてほしい」といった感想が聞かれました。AEDや人形の手配は大変でしたが、当日は大きなトラブルもなく無事終了することができ、そして何よりもインストラクターとして院内から13名、院外から8名の方々にご協力いただいたことが、今回の研修を有意義なものにできた最大の要因と考えています。ご協力いただいたインストラクターの皆様、快く派遣に協力いただいた各所属長の皆様には深く感謝いたします。

今年度も医療安全推進室は様々な医療安全管理研修を企画しています。

皆様の参加をお待ちしております。

～安全は何にも優る高度な医療～



平成27年度 学位授与の状況

次の38名に博士(医学)の学位が授与されました。(甲は「主科目」を、乙は「所属」を表しています。)

本審査日 平成27年5月12日(火) 9名

(甲) 河合 寿谿 脳神経機能制御医学
中澤 務 脳神経機能制御医学
飯田 昭夫 運動器再建医学
塚本 真治 運動器再建医学
(乙) 藤井 智美 病理病態学
北東 大督 消化器・総合外科学
酒本 佳洋 整形外科学
井上 和也 整形外科学
和田 敬 放射線医学

(乙) 上嶋 昌和 第三内科学
上羽 智之 整形外科学
吉元 千陽 産婦人科学
岡本 全弘 眼科学
壬生 寿一 泌尿器科学
伊藤 高広 放射線医学
内田優美子 NICU

本審査日 平成27年7月14日(火) 3名

(甲) 吉田 瑤子 血液・血流機能再建医学
(乙) 井上 隆 消化器・総合外科学
中村 信治 消化器・総合外科学

本審査日 平成27年11月10日(火) 13名

(甲) 江南 宣子 発生・発達医学
辻中 大生 視覚統合医学
御守 里絵 皮膚病態医学
正島 千夏 皮膚病態医学
藤村 貴則 分子医学
内原 好信 運動器再建医学

本審査日 平成28年3月8日(火) 13名

(甲) 山室 和彦 精神医学行動神経科学
下田絵美子 放射線治療専門医養成コース
勇井 克也 法医学
長山 功佑 情報伝達薬理学
桑田 真臣 泌尿器機能制御医学
倉 知彦 運動器再建医学
下林 幹夫 運動器再建医学
中野 健一 運動器再建医学
(乙) 大脇 浩幸 第二生理学
錦織 直人 消化器・総合外科学
山本 聡 整形外科学
春田 祥治 産婦人科学
橋本 和典 精神医学

平成27年度(第3回)若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定

平成27年度(第3回)若手研究者国際学会発表助成事業の助成者は、右記の2名の方々に決定しました。

この事業は、若手研究者の国際学会等での発表の機会を増大させ、国際的に活躍できる人材の育成を推進することにより本学における研究活動の一層の活性化を図るため、10万円を上限とし往復運賃相当額及び宿泊費相当額を助成しているものです。

年3回、各所属に応募要項を案内しますので、積極的なご応募をお待ちしています。

所属	職名	氏名
病理診断学	助教	中井登紀子
病理病態学	助教	辰巳 佳弘

助産師の実践能力を評価する全国共通の仕組み アドバンス助産師誕生

助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー)レベルⅢ認証制度(以下、CLOCMIP、<クロックミップ>レベルⅢ認証制度)がスタートしました。CLOCMIP レベルⅢ認証制度は日本看護協会(会長・坂本すが、会員70万人)が開発したCLOCMIPを活用し助産実践能力を評価することで、CLOCMIP レベルⅢに達していることを客観的に認証する仕組みです。必要書類と申請料5万円を添えて申請します。書類審査とWEB上での試験に合格した助産師が「アドバンス助産師」として認証されます。5年ごとの更新制で、助産師が継続的に自己啓発を行い、専門的能力を高めることにより妊産褥婦・新生児に対し、安全で安心なケアを提供できることを目的としています。

本制度は日本看護協会を含む助産関連5団体からなる「日本助産実践能力推進協議会」が創設を進めてきました。

2015年12月に、全国で5,562人、奈良県93人、奈良医大附属病院13人、奈良医大看護学科5人が認証されました。

■CLOCMIP (Clinical Ladder of Competencies for Midwifery Practice) レベルⅢとは

1. 入院期間を通して、責任を持って妊産褥婦・新生児の助産ケアを実施できる。
2. 助産外来において、個別性を考慮したケアを自律してできる。
3. 助産外来において、指導的な役割を実践できる。
4. 院内助産において、自律してケアを実施できる。
5. ハイリスクbへの意向を早期に発見して対処できる。

申請には分娩介助例数100例以上等々いくつかの必須要件があります。

学会等における論文賞等の受賞一覧

受賞者			賞の名称	受賞論文等	受賞日
所属	職名	氏名			
地域医療学講座 小児科学講座	特任 助教	矢田 弘史	平成 27 年度 奈良県医師会学術奨励賞	インヒビター保有血友病 A 患者に対する新規治療 戦略に関する基礎的研究	平成 27 年 11 月 28 日
臨床研修センター 内科学第二講座	研修医 医員	中村 真弥 寺本佳奈子	医学生・研修医の日本内科学 会ことはじめ 2015 京都 最優秀演題賞	肺化膿症を契機に診断した若年性の多発血管炎性 肉芽腫症 (GPA) の 1 例	平成 27 年 4 月 11 日
内科学第二講座	教授	木村 弘	Asian Pacific Society of Respirology (APSR) Michiyoshi Harasawa Research Award		平成 27 年 12 月 5 日
内科学第二講座	診療 助教	太田 浩世	奈良県医師会学術奨励賞		平成 26 年
消化器・総合外科	准教授	庄 雅之	日本肝胆膵外科学会理事長賞	膵癌術前治療の有用性と至適適応に関する検討	平成 27 年 6 月 12 日
消化器・総合外科	助教	赤堀 宇広	日本膵臓病研究財団 膵臓病研究奨励賞	膵癌における骨格筋異所性脂肪化の病態解明と新 規集学的治療戦略の開発	平成 27 年 12 月 1 日
消化器・総合外科	講師	山田 高嗣	第 43 回日本膵・膵島移植研 究会 学会賞	リプログラミング技術を用いた新たな膵島の臓器 再生誘導システムの開発	平成 28 年 3 月 5 日
脳神経外科	助教	松田 良介	2014 年堀賞 (臨床研究)	The persistent crucial role of the left hemisphere for language in left-handers with a left low grade glioma: a stimulation mapping study.	平成 27 年 4 月 25 日
脳神経外科	助教	竹島 靖浩	2014 年堀賞 (症例報告)	Fusion surgery for recurrent cerebellar infarctions due to bilateral atlantoaxial rotational vertebral artery occlusion.	平成 27 年 4 月 25 日
脳神経外科	助教	竹島 靖浩	奈良脊髄外科研究会 第 9 回論文奨励賞	Rheumatoid arthritis-induced lateral atlantoaxial subluxation with multiple vertebrobasilar infarctions	平成 28 年 2 月 6 日
産婦人科学	助教	吉元 千陽	第 36 回日本エンドメトリ オース学会演題発表賞 (臨床 部門)	チョコレート嚢胞の癌化の早期発見法	平成 27 年 1 月 25 日
産婦人科学	助教	重光 愛子	Young Investigator's Award of JSPF 2015	妊娠高血圧妊婦血清存在下の脂肪組織培養系にお けるプロテアーゼと細胞傷害	平成 27 年 8 月 22 日
産婦人科学	講師	成瀬 勝彦	日本妊娠高血圧学会 2013 年優秀論文賞	英文誌 "Hypertension Research in Pregnancy" Vol.1No.2 掲 載 論 文 "Cytokines, proteases, and ligands of receptor for advanced glycation endproducts (RAGE) released by primary trophoblasts from human term placenta under hypoxic stimulation"	平成 27 年 9 月 11 日
産婦人科学	医員	竹田 善紀	Japanese Society for the Advancement of Women's Imaging (JSAWI) 2015 優秀ポスター賞	卵巣明細胞腺癌における充実性部分は臨床進行期 に相関する	平成 27 年 9 月 5 日
泌尿器科	助教	三宅 牧人	第 31 回欧州泌尿器科学会議 (EAU2016) ベストポスター賞	CXCL1 signaling is a crucial mediator between cancer cells and tumour-associated macrophages/cancer-associated fibroblasts for tumour invasion and progression in micro-environment of human bladder cancer	平成 28 年 3 月 18 日

法務大臣より感謝状が贈呈されました

精神医学 教授 岸本 年史

精神医学の岸本年史教授は助教授時代から20年以上にわたり検察庁や裁判所の精神鑑定を60例余従事してきました。このたび岸本教授が、多年にわたり精神鑑定など刑事司法の適正な運用に貢献していることから平成28年2月26日に岩城光英法務大臣より感謝状と桐の御紋の入った銀杯を授与されました。なお、授与式は3月2日に奈良地方検察庁において秋山実

検事正によって執り行われました。



卒業生に対する複数回献血感謝状の贈呈

奈良県立医科大学 輸血部 教授 松本 雅則

在学中に積極的に献血に協力してくれた卒業生に対して、奈良県赤十字血液センター所長 谷慶彦先生から感謝状が贈呈されました。今回初めての試みでしたが、医学科卒業生の中尾寛宙君に対して、平成28年3月14日(本学卒業式の前日)の4年生の講義のあと感謝状と記念品が手渡されました。

10代、20代の献血者数が減少し、奈良県の献血者数が著しく不足する中、奈良県内で最も血液を使用する奈良県立医科大学附属病院のスタッフとしての危機感から計画したものです。次年度以降も在学中に10回以上献血をしてくれた卒業生に対して継続して感謝状の贈呈を実施したいと考えています。献血への御協力を引き続きよろしくお願いします。

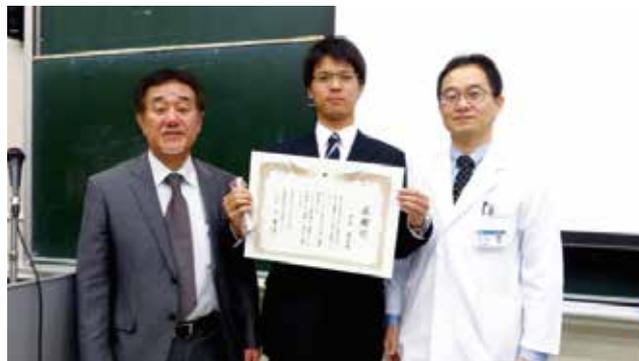
【中尾寛宙君からのメッセージ】

私は6年間で14回献血を行ったということで、この感謝状をいただきました。年に約2回というペースで決して多い回数ではありません。多くは、街に出て時間が余った時にふらっと寄った献血ルームで行いました。アイスやジュースが飲食し放題、映画も見れる、Wi-fiが使えると、スタバ代わりに財布がさみしい時によく利用しました。こういった単純な動機ではありませんが、結果としてこれで救える命があると考えれば、直接

的で分かりやすい人助けの道であると思っています。

この原稿を書くにあたり少し献血について調べてみたのですが、驚きました。近い将来、血液の在庫がなくなるかもしれない、それくらいに献血される方が減ってきているということです。医師となって血液を依頼しても在庫切れで届かないといった状況がすぐそこまで来ているということでした。

献血をしたことがなく怖いという方への私からのアドバイスです。注射する箇所を1分ほど押さえてみてください。これは「伊東家の食卓」で紹介されていたのですが、痛覚が鈍くなりほとんど痛くありません。おもしろいです。だまされたと思って是非試してください。郡山市筒井の血液センターと近鉄奈良駅の献血ルームはお勧めです。



第121回日本解剖学会総会・全国学術集会で優秀発表賞を受賞しました

医学部医学科5年生(研究医枠) 朝比奈 諒

この度、平成28年3月28日～30日に福島県郡山市で開催された、第121回日本解剖学会総会・全国学術集会の学生セッションにおいて、私の演題「脳梗塞時に発現する神経活動依存的遺伝子Npas4の解析」が口頭発表に選ばれ、さらに優秀発表賞を受賞しました。私は2年次より、早稲田大学から「研究医養成コース」に編入し、3年次の夏より、先端医学研究機構・脳神経システム医科学講座で研究をさせて頂いています。本研究においては、中大脳動脈閉塞手術により、脳梗塞モデル

マウスを作製し、虚血などにより脳組織が損傷した際に、失われたニューロンや神経回路を再生するための有効な治療法を開発したいと考えています。本研究を進めるにあたり、ご指導して頂いた坪井昭夫教授、高橋弘雄助教をはじめ、ご協力を賜りました多くの皆様に、この場を借りて感謝の意を表します。



第121回日本解剖学会総会・奨励賞を受賞しました

第一解剖学教室 助教 堀井 謹子

平成27年3月28日～30日に福島県郡山市で開催された第121回日本解剖学会総会・全国学術集会において、「マウス脳に新たに発見・同定した視床下部領域について」の研究題目につき奨励賞を受賞致しました。本研究は、これまでに同定されていなかった新しい視床下部領域を、細胞化学、神経解剖学の側面から明らかにし、その生理機能解明を目指した研究です。こ

のような伝統ある日本解剖学会の名誉ある賞を受賞することができましたのは、これまでに御指導頂きました西教授と、日々、実験に協力して頂いた多くの皆様の御蔭です。この場をお借りして深く御礼申し上げます。今後も、一生懸命研究に励んでいきたいと思っております。



Information

2016年度 奈良県肝癌撲滅市民公開講座

開催日：7月2日(土)
15:00～17:00
場所：橿原文化会館 小ホール
概要：肝疾患の概要説明及び個別質問受付
講演者：竹田 幸祐 氏(奈良医大 内科学第三)
上嶋 昌和 氏(奈良医大 内科学第三)
北出 光輝 氏(奈良医大 内科学第三)
対象：県民
定員：約200名
申込等：無料・事前申込み不要
問合せ先：奈良医大内科学第三
TEL.0744-22-3051(内線3415)

2016年 第3回 人を対象とする医学系研究講習会

開催日：7月8日(金) 18:00～(予定)
場所：大講堂(予定)
概要：「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等の研究に関して、一般的に遵守すべき各種規制に加えて、研究活動における不正行為や、研究活動に係る利益相反等についての教育を目的とした講習会です。臨床研究を実施する方、臨床研究を支援する方、倫理審査委員会委員の方を対象としており、外部の方にも参加していただけます。
講演者：笠原 正登 氏(奈良医大 臨床研究センター) 他
対象：研究に携わる者(全職員) 他大学、他病院職員も受講可
定員：500名
問合せ先：奈良医大病院管理課 野木、池本 (内線5289)
備考：研究に携わる者は、事前に本講習会を受講してください。本講習会は年6回開催されます。少なくとも1年に1回の受講が義務づけられています。

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました

「未来への飛躍基金」に対し、多くの方々から募金のお申し込みを賜り、厚く御礼申し上げます。今号では、平成28年1月以降にお申し込みいただいた方のご芳名を掲載させていただきます。今後ともご支援を賜りますようお願いいたします。平成28年3月31日現在

【個人】

◆100万円以上1,000万円未満

門野 文彦 様 宮川 幸子 様
掲載を希望されないご寄附者様 1名

◆30万円以上100万円未満

片桐 真二 様 上辻 秀和 様 菊川 政男 様
錦織 方人 様 福岡 和也 様 松澤 邦明 様
掲載を希望されないご寄附者様 3名

◆10万円以上30万円未満

奥井 桂三 様 徳西兵之助 様 西尾福真理子様
畠 生也 様 宮内 義純 様
掲載を希望されないご寄附者様 1名

◆10万円未満

大山 純一 様 景山 公三 様 香西美津子様
掲載を希望されないご寄附者様 2名

◆金額の公表を希望されないご寄附者様

杉浦 重樹 様 千 泰規 様 藤本 隆 様
三井 宜夫 様 村上 和宏 様 森 俊雄 様
森本 広之 様 吉川 高宏 様

【法人・企業】

◆1,000万円以上

医療法人 社団 田北会 様

◆50万円以上100万円未満

医療法人 康仁会 西の京病院 様
医療法人 山路整形外科 様

(五十音順)

メディア掲載情報をお寄せください～学報紙面で紹介します～

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生をこの「学報」紙面で紹介します。

掲載者	掲載メディア	掲載概要
細井 裕司 理事長・学長	NHK 総合 2016年4月5日(火)「ならナビ」「なら845」 2016年4月7日(木)「ニュースほっと関西」	今井町での本学のMBTの取組について、理事長・学長が紹介を行った。
今村 知明 教授 (健康政策医学)	読売新聞 2016年1月22日(金) みのりフーズ製麺許可後 岐阜県、検査せず	今村は厚生労働省の食品防御の研究班で研究代表者を、マルハニチロ農業混入事件では第三者検証委員会の座長を務めている。食品防御の識者として、廃棄された冷凍カツの不正転売事件でコメントが掲載された。
熊井 司 教授 (スポーツ医学)	TBS 系列・毎日放送テレビ(全国ネット) 2015年12月6日(日) 『駆け込みドクター～運命を変える健康診断～』	テーマ「放っておくと怖い 手足のトラブル」において、スポーツ整形外科の専門家の立場からスタジオで実技指導を交えて解説を行った。足のしびれの原因として腰椎疾患を解説し体幹トレーニングを、膝の痛みとして変形性膝関節症を解説し筋力強化訓練を指導した。また足趾力を高める運動についても解説し実技を行った。
吉川 公彦 教授 (放射線医学)	NHK・Eテレ 2016年3月12日(土) 「TVシンポジウム 最新治療・放射線 ～驚異の画像診断と進化する治療～」	大動脈瘤に対するステントグラフト治療について、紹介を行った。

編集後記

学報 56 号をお届けします。

現在、本学は 70 有余年の星霜が移り、時代の大きなうねりの中にあり、自立した組織として運営できる体制の整備、業務の透明性を確保しつつ権限と責任を明確化した体制の整備と組織全体としての意思決定や資源配分の迅速化、多様な人材の確保などが重要であると思われま。また、議論は正しい情報に基づきなされ、誤解に基づく意見の相違を避けなければなりません。職員間においては、多様な価値観や相手の立場を尊重し合い、相互理解を促進していくことが必要で、そのために学報の果たす役割は非常に大きいものと考えています。

学報が、今後も U I (ユニバーシティ・アイデンティティ) 構築の一助となるよう期待しています。

- 岸本 年史 (精神医学)
- 藤本 雅文 (物理学)
- 京谷 陽司 (薬理学)
- 山名香奈美 (母性看護学)
- 西 幸江 (看護部)
- 藤谷 威行 (研究推進課)
- 鷺見 正人 (教育支援課)
- 廣田 雅彦 (病院管理課)
- 森田 英之 (総務課・広報室)
- 阪田 聖基 (総務課・広報室)
- (○印は編集委員長)

学報バックナンバーは web サイト上でもご覧いただけます。

(<http://www.naramed-u.ac.jp/info/introduction/magazine.html>)



公立大学法人

奈良県立医科大学

Nara Medical University